

9月2日、日本共産党京都府会議員団は、京都府の荒巻禎一知事に対して、「関西電力高浜原発3・4号機の運転休止と点検を求めるべき」との緊急申し入れを行いました。

敦賀原発2号機の一次冷却水大量漏水事故の原因とされる再生熱交換器と同型のものが高浜3・4号機で使用され、バイパス流量が設計値を上回っていることも明らかになり府民の不安が広がっています。高浜4号機では国内初の「プルサーマル」運転が予定されており、きわめて重要な事態として、京都府の緊急対策を求めたものです。

申し入れには、西山秀尚府会議員団長、岩田隆夫副団長、三木一弘府議が参加し、京都府からは、山田啓二総務部長が対応しました。

知事は関西電力に対し

高浜3・4号機の運転休止、点検を求めるべきである

日本原子力発電敦賀原発2号機が大量の一次冷却水漏れ事故を起こした原因は、設計で想定していなかった冷却水の温度変化によって、再生熱交換器の配管が金属疲労を起こし亀裂損傷に至ったものであることが明らかになった。しかも熱交換器の日本原子力発電敦賀原発2号機が大量の一次冷却水漏れ事故を起こした原因は、温度変化とバイパス流量が設計値を上回っていたことも明らかになった。

このような設計ミスによる構造欠陥とそれに伴う金属疲労が今日までに発見されず、あるいは発見されていても黙認されていたことは致命的な結果を招く事故につながりかねないものであった。

本府に隣接している関西電力高浜3・4号機も、敦賀2号機と同型の設計ミスが明らかになった欠陥再生熱交換器を使用し、その安全性に重大な疑念が生じている。

ところが、関西電力は定期検査時まで運転を継続するとしており、きわめて無責任な態度をとっている。

本府域に重大な被害を与えることが予想されるこれらの事態について、本府として関西電力に対して、定期検査時を待たず、ただちに運転を中止して厳密な検査と改良をするよう厳重に要求すべきと考える。

併せて、高浜原発4号機のプルサーマル導入は、ただちに中止するよう要求すべきである。本府民の安全に責任を負う知事として、ただちに要求されるよう強く申し入れるものである。

一九九九年九月二日

日本共産党京都府会議員団

団長 西山 秀尚

京都府知事

荒巻 禎一殿

